



きたひろしま 誕生130年



今をさかのぼること130年、広島県人の手によって北広島市の基礎が築かれました。まちの誕生から現在に至るまで、先人たちは、さまざまな苦勞や困難、そして喜びがあったことでしょう。入植から130年という記念の年に、いま一度開拓の歩みを振り返り、時の流れを旅してみませんか。

明治17年・1884年 広島県人による 団体移住



それは、25戸・103人から始まりました。中心となったのは、安芸国沼田郡段原村（現在の広島県広島市）出身の和田郁次郎です。



和田郁次郎

一村創建を

志した郁次郎は、団体移住に先立ち、適地を探すため

を訪れます。明治16年、札幌郡月寒村のうち、輪厚川下流の両岸（現在の北広島市中央・共栄・中の沢・朝日・稲穂・東共栄）に移住地を定め

ました。団体移住者を迎えるため、後から合流した5人と共に10戸余りの小屋を建て、札幌本道（現在の国道36号）への道・2里余り（約8km）を切り開きます。

明治17年、最初の集落が、現在の道道江別恵庭線と輪厚川が交差する所に作られました。この年には、田畑16町歩（約16ha）を開墾。郁次郎は率先して励み、団体移住者一丸となって取り組んだといわれています。

しかし、この年は天候不順のため凶作でした。移住したことを嘆き、後悔する声も出てきます。郁次郎は



1和田郁次郎邸（明治20年代）現在の道道江別恵庭線・北広島交番の横付近 2村の中心部（大正5年）道道江別恵庭線・光顕寺付近から撮影 3村の中心部（昭和30年代）写真中央を斜めに通っているのが道道江別恵庭線 4道道江別恵庭線（昭和40年前後）広島神社付近から撮影 5村のにぎわい（明治末期）広島神社付近から撮影 6道道江別恵庭線（平成26年）北広島交番付近



聖地と公に呼ばれるように。その後も移住者は増え続けます。道路や橋が整備され、神社・寺院なども設けられました。村としての体裁が整い、一村独立の機運が高まります。

明治23年ごろには、一帯が広島開墾地と公に呼ばれるように。その後も移住者は増え続けます。道路や橋が整備され、神社・寺院なども設けられました。村としての体裁が整い、一村独立の機運が高まります。

皆を励まし、副業を始めました。炭俵を編んで売ったり、野幌や輪厚にある国有林のトド松材の払い下げを受けて角材を作ったり、寝食を忘れて働きます。何とか冬場をしのぎ、団体分散を免れたそうです。翌年は気候が良く、収穫にも恵まれました。郁次郎は収穫した稲を郷里に送り、移住を促します。しかし広島県では、北海道の別の地域への移住者が悲惨な状況にあったことから懐疑的でした。新たな移住者は期待できません。そこで、他府県からの移住者も迎えるようになります。明治19年に福井県人5戸・21人、翌年は札幌付近の小作農や岩手県人など20戸・70人が加わりました。明治23年ごろには、一帯が広島開墾地と公に呼ばれるように。その後も移住者は増え続けます。道路や橋が整備され、神社・寺院なども設けられました。村としての体裁が整い、一村独立の機運が高まります。

先人の言葉を残して

広島県から移住した大谷盛蔵から数えて、私は5代目。盛蔵の娘が和田郁次郎に嫁いでいて、盛蔵も一家で移住しました。私の父・義明が10歳の時に郁次郎は亡くなったと聞いています。

父は、自分の代で先人たちの記録をまとめなければ、開拓の歴史が失われてしまうと考えていました。当時を知る人から聞き取るなどして、19冊の本を執筆・編集。私も父がまとめた物を読んで、当時のことを知りました。先人の言葉を残していくことは大切です。

大谷恵一さん（北進町）



明治27年・1894年 広島村誕生

団体移住から10年後、大曲・島松方面と合わせて、広島村として独立。規模は広島開墾地500戸、大曲・島松方面130戸といわれています。和田郁次郎の業績を高く評価して村名を「和田村」とする声もありました。しかし郁次郎は固辞し、郷里広島の人々と開拓したことから、広島村とするよう申し出たそうです。



大正15年・1926年 北広島駅開業

大正15年、北海道鉄道株式会社
苗穂・沼の端間(現在のJR千歳線)
が開通、北広島駅が開業しました。
広島村で生産された農作物などの
輸送手段が、馬から鉄道へと転換し
ます。



昭和49年



当初の駅舎



平成26年



昭和30年代

弾丸道路(国道36号)

昭和28年には、国道36号札幌・千
歳間の舗装工事が完成しました。
着工から1年で「弾丸のようにす
ばやく完成した」ことから弾丸道路
と呼ばれるように。「弾丸を運ぶ軍
用道路」「弾丸のように早く走れる
道路」という意味もあったそうです。

昭和43年・1968年 村から町へ

札幌市の発展に伴い、広島村も成
長していきます。昭和43年に広島町
が誕生し、同年、8000戸規模の
道営団地建設が決定しました。

人口増加率 全国2位、全道1位

道営団地や札幌市に隣接する西の
里・大曲地区の発展で、人口が大き
く増加します。昭和45年の国勢調査
では9746人だったのが、50年に



1



4



5

市外に残る 広島県人 開拓の足跡

用水開削記念碑・札幌市西区
広島開墾用水と呼ばれた用水路の
完成記念碑



巖島神社・
奈井江町巖島地区
和田郁次郎が移住者を募
り開墾。郷里広島の大曲
神社の分神を祭り、心の
よりどころとしていた

広島橋・伊達市大滝区
国道276号、尻別川に架
かる広島橋。広島県人が
旧大滝村(現在の伊達市)
へ入植し、架けたのが始
まりとされている





は2万2264人となりました。人口増加率が128・4%を記録し、全国2位(全道1位)となった程です。

はまなす国体 空手道競技会開催

平成元年には、はまなす国体の空手道競技会が開催されました。その後も、さまざまな空手道の競技会が開催されるようになり、市内の中学校の授業でも採用されています。



平成8年・1996年 北広島市 スタート

平成4年、市制の指標となる人口5万人に達します。市制施行へ向け、市名を公募。北広島市や南札幌市、

クラーク市などの案が寄せられました。市制準備町民会議で、1位で提言されたことなどから北広島市が選ばれました。

平成26年・2014年 次世代へ つなぐ北広島

広島県人の入植から130年後、市は新しい施策をスタートさせました。市内で初めて住宅を購入する方を助成するファーストマイホーム支援や、おためし移住などの事業です。

着実に成長してきた北広島でも、人口減少に直面しています。市では今後、定住人口を増やすための取り組みを積極的に展開していきます。先人の志を引き継ぎ、笑顔あふれる北広島を次世代へつなぐために。



きたひろ130年記念事業のイラスト

きたひろ130年記念事業
開拓者の歩いた路を辿る

先人が開拓に入った道をたどってみませんか。
日時 11月9日(日) 午前9時～正午
集合場所 中央会館(市役所隣)
内容 大曲・中の沢・開拓記念公園をバスと徒歩で散策
定員 先着20人
*資料代が500円掛かります。
*歩きやすい服装で来てください。
申込み 11月6日までにエコミュージアムセンター知新の駅 (☎373-0188)

①島松沢付近の国道36号(昭和32年)昭和61年にバイパスが完成すると、旧道に ②村民体育大会(昭和36年)村を挙げて大盛り上がり ③大曲出張所開所(昭和51年)当時は、現在の大曲交番付近に ④田植え(昭和33年)中の沢の水田で ⑤米飯給食(昭和54年)小学校の給食風景 ⑥西の里地区夏まつり(昭和62年)延べ1,300人が参加 ⑦家畜品評会(昭和36年)多数出品され、盛大に ⑧ひろしま100年記念事業(昭和59年)さまざまな催しを開催



3 2 8

きたひろ130年記念事業 特別展
北広島130年物語

期間 平成27年3月31日(火)まで
内容 北広島の歴史をパネルでたどる
会場・問合せ エコミュージアムセンター知新の駅 (☎373-0188)



6 7